90-21-11300

慶應義塾大学ビジネス・スクール

オン・ザ・エッヂ

「光の国と柔らかい銀行がすごい」[i]

1999 年当時、このような言葉がベンチャー経営者の間ではささやかれていた。光の国は光通信、柔らかい銀行はソフトバンクを意味していた。両者はネットベンチャーに限定した投資基金（ファンド）を設立し上場前のインターネットベンチャーを積極的に青田買いしていた。そのため、資金調達方法が限定されているネットベンチャーにとっては有力な資金提供者となっていた。当時、インターネットベンチャーは急成長を遂げ、株価もうなぎのぼりであったことに加え、1999 年 10 月には商法の改正が行なわれ、株式交換制度が許可されるようになった。ネットベンチャーの株を上場し、公開株に変換するというエグジットが可能となったことで、キャピタルゲインを目的とする投資は過熱感を帯びるようになった。

1999 年 9 月、光通信キャピタルは売上高 2 億 5 千万円程度、額面株価 5 万円であったとあるベンチャー企業に対して、額面の 60 倍で 4 億 5 千万円分の第三者増資割り当てを引き受ける決定をした。投資の対象となった企業の名前は株式会社オン・ザ・エッヂであった。

～設立～

1996 年 4 月、当時東京大学の学生であった堀江貴文は有限会社オン・ザ・エッヂ（資本金 600 万）を設立した。資本金は創業メンバーの親から調達、学生 4 人でのスタートだった。1997 年 7 月に株式会社に組織変更した。（資本金 1000 万円）

設立のきっかけを堀江は以下のように語る。

「コンピュータを利用しはじめたのは大昔ですね。中学のころ MSX から入りました。それから、PC-8801，9801 と移行したんですけど、BASIC やアセンブラ[ii]でゲームや学習ソフトをつくってました。

本ケースは、クラス討議の資料とするために、慶應義塾大学経営管理研究科准教授 小幡 績によって作成された。経営管理の巧拙を記述したものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで（〒 223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は http://www.bookpark.ne.jp/kbs/ から。

Copyright © 小幡 績（2021 年 12 月作成）